



TITLE:

VURを伴った尿道異所性前立腺組織の1例

AUTHOR(S):

林正, 健二; 滝, 洋二

CITATION:

林正, 健二 ...[et al]. VURを伴った尿道異所性前立腺組織の1例. 泌尿器科紀要 1979, 25(1): 67-69

ISSUE DATE:

1979-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122367>

RIGHT:

VUR を伴った尿道異所性前立腺組織の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 吉田 修教授)

林 正 健 二
滝 洋 二ECTOPIC PROSTATIC TISSUE IN A MAN WITH VUR:
REPORT OF A CASE

Kenji RINSHO and Yoji TAKI

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

(Director: Prof. O. Yoshida, M. D.)

With complaints of gross hematuria and colic, a 12-year-old boy was referred to this department on Feb. 3, 1978. IVP revealed left hydronephrosis and VCG disclosed left VUR. On the cystoscopic examination a polyp was observed in the posterior urethra. The patient had no difficulty in urination. Anti-reflux operation (Hutch's 1st method) and resection of polyp were done. Histological finding of polyp showed ectopic prostatic tissue. We collected 11 cases of clinically reported ectopic prostatic tissue in the Japanese medical literature. This case is the youngest one in the reported cases.

緒 言

1962年 Nesbit¹⁾ が命名し, 1971年 Butterick らの²⁾ が詳細に述べた異所性前立腺組織は, 成人男子の血尿を検査する際念頭に置くべき疾患の1つである。最近われわれは VUR を伴った異所性前立腺組織の1例を経験したので報告する。

症 例

12歳男子, 小学6年生。主訴は肉眼的血尿。既往歴に特記すべきことはない。家族歴では父方の祖父が胃癌にて死亡。1978年1月24日下腹部に疝痛をきたした後, 肉眼的血尿に気付いたが, 翌日には消失した。2月3日本院小児科受診し, 同日当科へ紹介された。IVPにて左水腎症を認め, VCGにて左側のVURが証明されたため手術目的で3月13日入院した (Fig. 1)。

入院時理学的検査にて異常なく, 検尿では pH 6, 蛋白 (-), 糖 (-), 赤血球 (-), 白血球 (-), 円柱 (-), 塩類 (+) であった。一般検血, 血清生化学, 肝・腎機能検査に異常はなく, 出血・凝固時間も正常であった。

膀胱鏡検査では, 容量150 ml以上。左尿管口に外見

上異常は見られなかったが, 前立腺部尿道の膀胱頸部よりポリプ様の小腫瘍を発見した。Uroflowmetryにて異常なく, 残尿は10 ml以下であった。

3月24日全身麻酔に逆流防止術 (Hutch I 法) および後部尿道ポリプの切除を行なった。術後経過は良好で4月8日退院。術後4カ月のレ線検査にて VUR 水腎症はともに消失している。

切除したポリプ様小腫瘍の病理組織検査にて, 尿道粘膜下に前立腺組織と思われる乳頭状に増生した腺組織を認め, 異所性前立腺組織と診断した (Fig. 2, 3)。

考 察

異所性前立腺組織は, 本来尿道の粘膜下あるいは筋層内の前立腺部に存在する前立腺上皮組織が異所性に他の尿路に存在するものをさし, 胎生期の前立腺組織の迷入が成因としてあげられている。多くは前立腺部尿道に見られるが, 膀胱内にも存在する。Butterickらの報告では, 年齢は13~63歳, 平均31歳。本邦の報告でも19~69歳で, 多くは成人であり, 本症例は本邦における記載の明らかな報告例のうち最年少者と思われる (Table 1)。主訴は血尿が最も多く, Butterickらの報告では68例中65例に血尿がみられている。小柳



Fig. 1. 排尿時膀胱尿道造影.

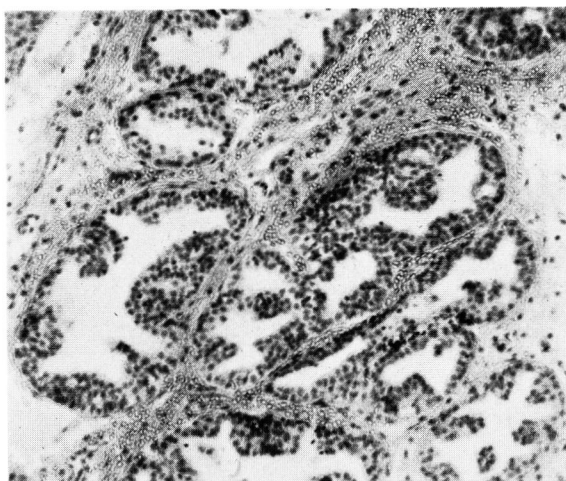


Fig. 2. 後部尿道ポリープの組織像 (×100).

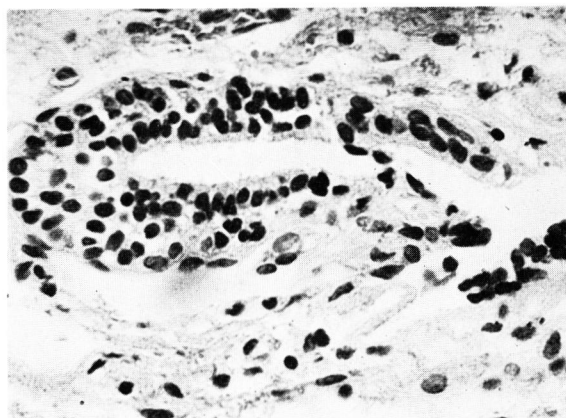
Fig. 3. Fig. 2 の一部強拡大像 (×400)
Prostatic acinus を認める.

Table 1. 異所性前立腺組織症例.

報 告 者	年 代	年 齢	発 生 部 位		レ線検査
			尿 道	膀 胱	
1 永野・ほか ³⁾	1970	61		側 壁 不 明	
2 小柳・ほか ⁴⁾	1972	42	前立腺部		正 常
3 "	"	21	"		"
4 "	"	19	"		"
5 "	"	21	"		"
6 "	"	59	"		"
7 "	"	57	"		"
8 川倉・ほか ⁵⁾	1974	34	"		"
9 "	"	39	"		"
10 中村・ほか ⁶⁾	"	44	"		"
11 阿部・ほか ⁷⁾	1977	69		右尿管口 附 近	"
12 自 験 例	1978	12	前立腺部		VUR (+)

ら⁴⁾が強調しているように、思春期以後の男子の原因不明の血尿患者には、本疾患を考慮に入れて積極的に尿道鏡検査を施行すべきであろう。

本症例において問題となったのは、後部尿道腫瘍とVURの関係であった。小児尿道ポリープの場合、著明な排尿障害をきたし、二次的にVURが見られることがある。本症例では自覚的に排尿困難がなく、uroflowmetryにて正常の排尿がみられ、残尿も10 ml以下であったことなどよりVURは先天性と判断した。また小児における尿道ポリープに対し、経尿道的に処置するか、経膀胱的に処置するかは議論の多い問題であるが、技術的に容易であるという利点より後者を選択し、上述の手術を行なった。なおButterickらの報告では、排尿障害や頻尿が約半数に見られたが、VURを合併した例はなく、本邦における報告例でも同様である。それゆえ本症例のVURも先天性であ

ったと思われる。

ま と め

肉眼的血尿を主訴として来院した12歳男子に見られた VUR を伴う異所性前立腺組織の1例を報告した。なお自験例は本邦における記載の明らかな報告例中第12例目にあたり、年齢では最年少例である。

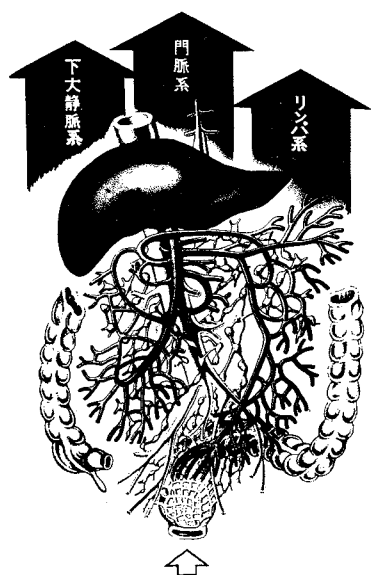
稿を終えるにあたり、御校閲いただいた吉田教授に深謝いたします。

文 献

- 1) Nesbit, R. M.: J. Urol., 87: 416, 1962.
- 2) Butterick, J. D., Schnitzer, B. and Abell, R. M.: J. Urol., 105: 97, 1971.
- 3) 永野紀嗣・ほか：日泌尿会誌, 61: 1082, 1969.
- 4) 小柳知彦・ほか：臨泌, 26: 1077, 1972.
- 5) 川倉宏一・ほか：日泌尿会誌, 65: 324, 1974.
- 6) 中村武夫・ほか：日泌尿会誌, 65: 407, 1974.
- 7) 阿部定則・ほか：臨泌, 32: 185, 1978.

(1978年10月9日受付)

パイオニアの責任とたゆまざる研究によって、
ついに、フトラフルに四つの剤型が完成しました。



フトラフルズボ・ズボS
3つの吸収経路

抗悪性腫瘍剤 (FT-207)

フトラフル®

注	薬価	1管 1641円
カプセル	薬価	1カプセル 679 ²⁰ 円
ズボ [○] (新発売)	ズボ ^S 薬価	1000mg 1個 2901 ⁵⁰ 円
	ズボ [○] 薬価	750mg 1個 2461 ⁵⁰ 円
細粒 (新発売)	50% 1g	1555 ⁴⁰ 円
	40% 1g	1263 ³⁰ 円
	20% 1g	679 ²⁰ 円

健保適用



大鵬薬品工業株式会社

〒101 東京都千代田区神田司町2-9